

# 映像用シナリオ

登場人物

愛梨(18)

由紀(18)

## ○ 高校・教室(夜)

薄暗い室内、床には女子の制服が脱ぎ散らかっている。

半裸姿の愛梨(18)、落ちている服を拾って着ながら、窓の外を見る。

愛梨「うわ、雨降りそう」

同じく半裸姿の由紀(18)、下着にブラウスを羽織っただけの格好で、窓際の机の上に腰かけている。

由紀「(俯いて)…」

愛梨、由紀のもとまでやって来て、由紀が羽織っているブラウスのボタンを丁寧に止めていく。

愛梨「降ってくる前に帰ろっか、由紀」

由紀、愛梨の手元を見つめている。

由紀「…ねえ」

愛梨「？」

由紀「…あのね…(言葉に詰まる)」

愛梨「どうしたの？」

由紀「…ごめん、なんか…」

愛梨、由紀の髪を撫でる。

愛梨「大丈夫。待ってるよ」

由紀「…愛梨、あのね」

愛梨「…？」

由紀「私、卒業したら、留学しようと思うの」

愛梨「…！」

由紀「この間の三者面談で先生に勧められて、お母さんも乗り気になっちゃって。私、特に行きたい大学もないし、いいかもなって…」

愛梨「…」

由紀、荷物を持って立ち上がる。

由紀「…ごめん、帰ろっか」

愛梨「…由紀」

由紀の手を握る。

愛梨「結婚式ごっこ、しない？」

由紀「…」

愛梨、教卓の前まで走って、

愛梨「(教卓を指して)ここに神父様がいる。

(座席を指して)ここ、お客さん」

愛梨「ここに、ウエディングロード」

由紀「…ブーケ、どうしよっか」

愛梨「…ペンの束とかでいいんじゃない？」  
愛梨、自分の鞆から筆箱を取り出し、その中の色とりどりのペンを取り出す。  
それらを束ねて、由紀が持つ。

由紀「(笑って)安っぽーい」

愛梨「ペールでしょう。カーディガンとか？」

羽織っていたカーディガンを、由紀の頭にのせる。

由紀「(笑って)やだ、静電気ヤバイ！ いいよ、なくて」

愛梨「えー」

x x x

愛梨と由紀、手をつないで教卓の前に立っている。由紀、ブーケに見立てたペンの束を、片手に持っている。

愛梨「…なんか言ってるよ」

由紀「えー？ …えっと、病める時も、健やかなる時も、喜びの時も、悲しみの時も…(次の句がわからず、言葉に詰まる)」

愛梨「富める時も、貧しいときも、これを愛し、これを敬い、これを慰め、これを助けて、その命ある限り、真心を尽くすことを誓いますか？」

由紀「誓います」

愛梨「…誓います。由紀、左手出して」

由紀「誓います」

愛梨、左手を出す。

愛梨、由紀が持っているペンの束からペンを一本取り、そのペンで由紀の左手の薬指に指輪状の線を書く。

愛梨「指輪の代わり」

由紀「(笑う)」

愛梨からペンを受け取り、愛梨の左手の薬指に線を書く。

愛梨「…ありがとう。…次、どうしよう」

由紀「…誓いのキスじゃん？」

愛梨「…」

由紀、愛梨にキスする。

沈黙。

由紀「(笑って)なんか言ってるよー」

愛梨「…ごめん」

由紀「あと、ブーケトスカ！」

愛梨「後ろ向きに投げるんだよ」

由紀「せーの！」

後ろ向きにペンの束を投げる。

あたりにはペンが散らばる。

由紀「(笑って)予想以上に大きい音出た！」

愛梨「(笑う)」

笑いやみ、見つめ合う2人。

愛梨「…雨、降るよ。先に帰りなよ」

由紀「愛梨は？」

愛梨「片付けてから帰る。それに、由紀は家、遠いじゃん。私は家、近いから」

由紀「…そっか、ごめんね」

愛梨「言い出しっぺだもん」

由紀、荷物を持って扉の方へ。

由紀「…じゃあね」

愛梨「うん、じゃあね」

由紀、教室を出る。

愛梨、由紀を見送った後、散らばったペンを拾い始める。

○ 屋上(夜)

由紀がやってくる。

壁際まで行き、空を見上げる。

由紀「…」

由紀の目から涙がこぼれてくる。

涙を拭い、ふと手を見つめる。

左手の薬指の線が、にじんで消えそうになっている。

由紀「(体を震わせて)…さむっ」

屋上から出て行く。

○ 教室(夜)

愛梨、散らばったペンを拾っている。

愛梨「…」

ペンを拾いながら、泣き出す。

その場に座り込み、ペンを握りしめながら、泣く。

# ボイスドラマ用シナリオ

## ○ 教室

愛梨「…なんだか雨でも降ってきそうな天気だね」

由紀「……」

愛梨「雨が降ってくる前に帰ろっか、由紀」

由紀「…ねえ、愛梨」

愛梨「?どうしたの、由紀?」

由紀「…あのね……」

(長い沈黙)

愛梨「…だいじょうぶ。ゆっくりでいいよ。わたし、ずっと待ってるから」

由紀「…愛梨、ありがとう…。あのね、わたし…。卒業したら、外国に留学しようと思ってる」

愛梨「え……」

由紀「この間の三者面談で先生に勧められて、お母さんも乗り気になっちゃって。わたし、別に行きたい大学とかないし、それもいいかもなって…」

愛梨「……」

由紀「…ごめんね、急にこんなこと言って!」

そろそろ帰ろっか!」

愛梨「…待って、由紀!」

由紀「……?」

愛梨「あの…さ…。…結婚式…っこしない?」

由紀「結婚式…っこ?」

愛梨「ほら…教室ってなんだか、教会みたいだなんて思わない? ここの教卓のところに神父様がいる、座席のところにお客さんがいて…。真ん中の席と席の間なんて、まるでウェディングロードみたいでしょ?」

由紀「…結婚式するなら、絶対にブーケは必要だよね」

愛梨「(喜びを隠し切れない様子で)…! うん! 花はないし、なにかブーケのかわりになるようなもの…。カラーペンの束とか?」

由紀「あははっ! 安っぽーい!」

愛梨「ドレスは仕方ないとして、ウェディンググベールはどうしょっか。あっ、わたしのカーディガンを頭にかぶればいいんじゃない?」

由紀「えー、静電気で髪がボサボサになっちゃうよ!」

愛梨「それもそっか、あははは!」

由紀「あははは…(F0)」

BGM F1

愛梨「……」

由紀「……」

愛梨「…由紀、なんか言ってるよ」

由紀「えー! 自分が言い出しつぺなんじゃない! えっと…病める時も、健やかなる時も、喜びの時も、悲しみの時も…。…続き、なんだっけ?」

愛梨「…富める時も、貧しいときも、これを愛し、これを敬い、これを慰め、これを助けて…。その命ある限り、真心を尽くすことを誓いますか?」

由紀「…誓います」

愛梨「…誓います…。…由紀、左手出して」

由紀「うん、どうぞ」

由紀「…なにこれ? 左手の薬指に、赤ペンで輪っかなんて書いて…」

愛梨「指輪の代わり。本物は無いからさ」

由紀「…ちゃんと水性のペン、使ってくれた?」

愛梨「さあ、どうでしょう?」

由紀「ええっ!? ちょっと、愛梨〜!」

BGM F0

愛梨「あはははは。 (一呼吸)…次、どうしようか」

由紀「あとはそうだなー…誓いのキスじゃない?」

愛梨「……(息をのむ)」

由紀「…ちよっと! 黙ってないでなにか言ってよー!」

愛梨「…ごめん。キスは…省略しようか、うん」

由紀「…わたしはしてもいいよ?」

愛梨「えっ……」

愛梨「……! 由紀……」

由紀「…えへへ、ちよっと恥ずかしいね」

愛梨「……」

由紀「あとは…ブーケトスだね!」

愛梨「…うん」

由紀「よしっ、それじゃ投げよう! いっせいの…せっ!」

SE: ペンがばらばらに落下する音

由紀「あはははっ！ 思ってたより大きい音で  
た！」

愛梨「あははっ…」

愛梨「……」

由紀「……」

愛梨「…雨、そろそろ降ってきそうだよ。由  
紀は家が遠いんだから、先に帰りなよ」

由紀「愛梨は？」

愛梨「ここの片付けしてから帰るよ。言いつ  
しっぺなんだし」

由紀「…そっか、ごめんね」

SE…扉の開閉音

由紀「…じゃあね」

愛梨「うん…じゃあね」

SE…足音(どんどん遠くなっていく)

愛梨「(ゆっくり間を置いてから)…あはは、  
ただのペンでもこうして見ると綺麗なもの  
だね。まるで…本当に花が散らばってるみ  
たい…」

BGM ON

愛梨「なんで…なんであんなことしたの…由  
紀のばか…。わたしはただ…綺麗な思い出  
を作ってたかっただけなのに…。どうせわた  
しのことなんて置いて、どこか遠くに行っ  
ちやうくせに…。…ううっ…ひっく…うわ  
あああんっ…」

BGM OFF

END